

何事にも時があり

天<sup>てん</sup>の下の出来事にはすべて定められて時がある。

生まれる時、死ぬ時

植える時、植えたものを抜く時

殺す時、癒す時

破壊する時、建てる時

泣く時、笑う時

嘆く時、踊る時

石を放つ時、石を集める時

抱擁の時、抱擁を遠ざける時

求める時、失う時

保つ時、放つ時

裂く時、縫う時

黙する時、語る時

愛する時、憎む時

戦いの時、平和の時。

今年も、12月になりました。

今読んでいただいた「コヘレトの言葉」に、

何事にも時があり 天の下の出来事にはすべて定められた時がある。とあります。

自分がうまくいかない時、苦しい時

そんなはずでない、そんなことでない、と悩みます。そして、そのことが、ずっと長く頭を抱えてゆく。

このことに、年齢や、人生経験の多さ少なさは関係ありません。なぜなら、その悩みはいつも、目の前の現実だから。

辛くとも、時には、それに向き合い続けることが、求められます。

そしてそれが、不思議なことに、ある日それが、ふっと、まるで石が溶けるように、心がやわらか

くなっていて、その悩みから解き放たれたように、自分が前に進んでいることに気づく。

こんな話を聞きました。

幼少時から、育児のストレスのために、幼小中とずっと両親の虐待を受けて育った子どもが、子供好きもあって、いつしか自分は育児ストレスの親の悩みを聴いてあげる保育士になりたいと、思うようになった。そして、それを目指して勉強している。

こんな話も聞きました。

幼少時から、人とは話すのが恐いままに育った子どもが、幼小中と引きこもり不登校を続けていた。支えてくれる人たちもいて、勉強の努力を重ね、高校生になって過ごすうちに、自然と心が開き、人前でも話し、友人ができた。力が抜けたようになって、前に向かって進んでいる。

どちらも、ドミニコ生の話、皆さんの先輩の話です。

人を受け入れる時、自分を受け入れる時、それは自分を開く時。

人には必要な時があり、与えられた時があり、それが、ドミニコで過ごす時と重なっていた。

今うまくいかないと思って苦しんでいることが、今の自分にとって、それは必要な時なのかもしれ

ない。

そんなことも、そんなはずのことも、そのことも、自分にとって必要なものだから、今用意された「時」の産物なのかもしれない。

きょうの聖書の箇所を読む度に、そんなことをいつも感じます。

今年一年、皆さんにとって、それぞれどんな「時」を経験したでしょうか。